

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：R6年 2月 2日

事業所名

放課後等デイサービス ここわ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		大型おもちゃを収納する部屋を確保したり、造形遊び等で子どもが自分で出せて片付けれる棚を作り活用している。	10人利用しても狭くは感じないが、今後も子どもの個々の特性に応じた対応の上、快適に過ごせる場を提供していく。
	2	職員の配置数は適切である	6		特性に応じて対応し、お出掛け時は必ず担当児童を配置し人数把握を徹底している。	職員の入れ替わりが多かった。研修やコミュニケーションを図り定着率を高めるように努める。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	音や声が完全に遮断できる個室がないので、配慮が必要な場合は散歩、ドライブ、近くの法人内事業所に行く等をしている。	手洗い場に目が届きにくいので、様々な状況を想定して職員の動きの配置を話し合っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		課題がみられた場合はヒヤリハット報告書を活用して振り返りを行っている。毎月全員参加で法人内会議を行っている。	学校休假日のミーティングの確保が課題であったが、帰りの送迎時間を早めたことで振り返りの話し合いができるようになった。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		とても参考になる意見をいただいている。	今後も様々な意見をいただきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページで公開している。また、職員間でも共有し業務改善に努める。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		今後の課題とする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		法人内研修や外部研修に参加し報告書やアンケートで振り返りもしている。	外部より講師を招いて法人内でAED研修やドライビング研修を行った。研修動画サイトのアプリの活用もしている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		日々の支援に関わる職員の意見も参考になっている。	子どもに話を聞いたりモニタリングで保護者に来所して頂いたり、家庭に訪問して話し合いの場を設けている。支援会議の他事業所の意見も参考にさせていただいている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		今年度、アセスメントシートの見直しを行った。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		職員間で話し合いながら立案している。	法人内合同活動も毎月計画してマンネリ化しないように安全面にも考慮しながら話し合い実施している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		活動プログラム等がある専用アプリの活用もしている。	季節感を取り入れ、子どもの得意や特性に応じた活動プログラムになるように努める。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		休日、長期休暇は活動の流れにメリハリをつけている。	休日、長期休暇にしかできない集団活動も取り入れている。今後も子どもの特性に応じて設定する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6		毎日内容の記録もできている。	更に深める必要がある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		業務内容を可視化している。	役割分担についてはミーティングにて話し合いを行っている。 長期休暇については送迎時間を早めたことで前日行うことができている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		支援記録を記載しながら振り返りができている。課題が残れば翌日のミーティングで話し合っている。	職員間の情報共有で連絡ノートの活用をしていく。保護者から要望等があったの個別対応については可視化して統一した支援が出来るように改善し取り組んでいる。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		支援の検証・改善がしやすいように計画書と支援記録用紙を個々にまとめている。	モニタリング会議でも日々の支援記録を見直している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			今後も課題がみられた時は適宜計画書の見直しをおこない、定期的にモニタリングを行う。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	6			活動がマンネリ化しないように支援していく。	
関係機関や保	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		担当者会議前には話し合いを行い管理者が参加している。	参加後は情報を共有し、その後の支援につなげる。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6		保護者や学校に確認してオープンスクールにも参加している。	学校のホームページの活用や保護者より下校予定表をSNSにてもらっている。送迎表作成後はダブルチェックをしている。送迎前には職員各自でタイマーをセットして時間の把握に努めている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6			現在対象児童がいないが、研修で感染、病気、怪我等について知識や事業者内の統一した連絡体制を整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	児童発達支援事業所、保護者、相談員より情報共有を行った。	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園との情報共有が今後の課題。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		支援会議に参加できている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		関係を図り支援会議を行った。	今後も連携し、助言や研修を行う場を設けて職員間で内容を共有して行く。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	1	交流はないが外出活動で地域のお祭りやイベントに参加している。	交流する機会はないが「学校に新しいお友達ができた。お友達と歩いて一緒に帰る」等の声が保護者や子ども本人から聞かれている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		6		今後の課題とする。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		送迎時の申し送りや面談を通して共通理解を深めている。	送迎で伝えられない場合は電話にて対応している。今後も真摯に対応をしていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2		保護者からの相談にはその都度対応しているが十分な対応に至っていない場合もある。研修や勉強会を通して今後の課題とする。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に行い、その後変更がある場合はその都度SNSや紙面にて行っている。	問い合わせがあった場合には迅速に対応している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	職員間で話し合い相談に応じて助言と支援を行っている。	十分な対応に至っていないケースもあるので今後の課題として真摯に対応する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		今後どのような形で保護者会を再開するか検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		対応内容については職員間で話し合い、子どもや保護者に主に管理者が説明している。	今後も迅速に丁寧な対応を行っていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		ホームページ、SNSで伝えている。子どもが見てくれていて感想を言ってくれる。	ホームページを通して県外の方の交流が図れ職員の励みとなった事例があった。今後も更に多くの情報を届けたい。
	35	個人情報に十分注意している	6			今後も個人情報に十分注意していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		日々のミーティングで子どもの特性理解に努め、誰でも対応できる体制にしている。	子どもの特性に合わせて関りを深めたり、保護者との情報共有を密に行っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	慰問ボランティアや移動販売の方に来所して頂いた。	地域住民を招待する機会がないので今後の課題とする。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	マニュアル作成はできている。	保護者に周知できていないので今後の改善とする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		定期的に訓練を実施している。	行事予定に記載したり、実施後はホームページにて公開している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		虐待防止委員会を設け研修を年2回実施している。	今後も外部研修や事業所研修を通して知識の向上を図る。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		子どもの特性に合わせた対応をその都度職員間で話し合っている。	対象となる児童はいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			現在対象児童がないが、知識は必要と思われるので研修で取り組む。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		法人内で事例を共有している。	半年毎に事例を分析し、分析結果を共有することもできている。	